

トップ直撃インタビュー

UCC 上島珈琲

芝谷博司代表取締役社長



より良い世界のために、コーヒーの力を解き放つ。

2025 年 3 月に就任した UCC 上島珈琲の芝谷博司社長。国内レギュラーコーヒートップシェアメーカーの舵取りが注目されるが、他の産業と同様に課題は多い。現状、展望を聞いた。

（聞き手 石母田 景）

—現在の日本経済をどう見ている

日本は今、雇用や所得の改善により、景気は緩やかな回復基調で推移していますが、不安定な国際情勢、物価上昇など依然として先行き不透明な状況が続いています。世間では生活に欠かせない食品の価格改定がシビアに見られていますが、嗜好品、健康関係製品などは少々値が張っても自分にとって価値があると思えば、お金を使うようになっていく印象を受けます。

—コーヒー産業も変化しているように

当社が属するコーヒー産業も過渡期にあります。世界的な需要拡大、資源高による製造コスト増加、生産

国での異常気象による供給量減少などで、生豆国際相場は 2024 年 12 月に半世紀ぶりの過去最高値を記録し、今年に入ってから更新しました。さらに円安傾向も重なり、日本のコーヒー産業は価格改定などの対応に追われています。

UCC グ

すべてのステークホルダーを幸せに

ループは、「より良い世界のために、コーヒーの力を解き放つ。」のバースを掲げ、コーヒーの新たな可能性を追求し、今までにない価値創造にチャレンジし続けています。特にサステナビリティに関しては、生産国の様々な課題、SDGs などにより身近に感じ、これからもおいしいコーヒーを飲み続けたい、と思っただけでなく、サプライチェーン全体に関わる事業体制を活かしてあらゆる角度から情報発信や製品展開に取り組んでい

ま、2030 年までに自社ブランドを 100% サステナブルなコーヒー調達に」を目標に掲げ、認証団体など複数のパートナーと連携しながらサステナブルなコーヒー調達の比率を高めています。2025 年 4 月から本格的な量産・販売を開始した「水素焙煎コーヒー」は、焙煎の熱源を従来の天然ガスではなく水素とすることで焙煎プロセスにおける CO₂ 排出をゼロにし、環境負荷低減に貢献する試みで

す。

—UCC グループのサステナビリティとは

生産国では、40 年以上にわたる直営農園事業で得たノウハウを活かし、生産者に品質改善や栽培方法などをアドバイスする活動を推

進しています。

また、「2030 年までに自社ブランドを 100% サステナブルなコーヒー調達に」を目標に掲げ、認証団体など複数のパートナーと連携しながらサステナブルなコーヒー調達の比率を高めています。

2025 年 4 月から本格的な量産・販売を開始した「水素焙煎コーヒー」は、焙煎の熱源を従来の天然ガスではなく水素とすることで焙煎プロセスにおける CO₂ 排出をゼロにし、環境負荷低減に貢献する試みで

す。2040 年までにカーボンニュートラルの実現」を目指したアクションの一つでもあります。温度調節幅の広さで多様な焙煎プロファイルが可能になり、味覚面で無限の可能性を秘めている点も見逃せません。サステナブル、おいしさを両立する、コーヒー専門の当社ならではの取り組みと自負しています。

他にも、コーヒー豆を丸

たいと考えています。
—自身の経歴を経営に活かそうか

1991 年の UCC 上島珈琲（現 UCC Capital）入社以来、約 20 年間業務用コーヒー事業を担当してきました。今も昔も変わらない UCC グループにとって重要な事業ですが、中間業者故にあらゆるステークホルダーと信頼関係を構築する必要があり、同時にコーヒー産業の仕組みを深く学ぶことができたと考えています。

その後、

ラッキーコーヒーマシン、

ご使った、飲まないコーヒーの「YOINED（ヨインド）」。2025 年夏には水で丁寧に淹れる「水淹れコーヒー」を提案しています。

—あらゆる産業で人材不足が課題だ

人材育成にも継続して力を注ぎます。2000 年から難関な社内資格制度をスタートするなど、産地、製造工程、味覚といったコーヒーのあらゆる知識に長けた人材が生まれています。一方で情報発信についてはより高いレベルにしてい

意識に縛られず「コーヒー産業全体を底上げしていく」姿勢が必須なのです。過渡期にあるコーヒー産業において、この経験が役に立つと確信しています。

—今後の意気込みを

コーヒー専門の当社は、コーヒーにとことんこだわりのつつ、サプライチェーンに関わるすべてのステークホルダーの幸せを第一に考えなければいけません。皆様の生活が豊かになり、より良い世界を実現するために、コーヒーの力で UCC グループができることに挑戦し続けます。

.....

設立 70 周年おめでとうございます。当時当社は、戦後まもない 1950 年にコーヒーの輸入を再開したのにはじまり、その後、1951 年に上島忠雄商店から上島珈琲株式会社に改組、東京・広島・名古屋・大阪・福岡と全国に支店網を広げ始めたところ。70 年の永きにわたりコーヒー業界の発展にご尽力賜り厚く御礼申し上げます。

※当社「酒類食品統計月報 増刊号 70 周年記念号」（8 月末発行）に掲載のインタビューを加筆、再編集したものです。